



絆（きずな）

目指す児童像

- やさしい子
- よく考える子
- ふるさと思いの子

安全で健全な夏休みを過ごすために…

～自分の命は自分で守らせる指導と我が家のスマホルール～

7月15日(金)の授業参観、保護者会にご出席いただき、ありがとうございました。学級担任からお子様の1学期の生活や学習の様子について、報告があったと思います。まず成長したことを認め(ほめ)、2学期以降にがんばるべきことを伝えてあげてください。



着衣泳の様子

さて、7月21日(木)から8月29日(月)まで夏休みとなりますが、安全で健全な夏休みを過ごすために2つのことをお願いいたします。

1つは、自分の命は自分で守らせるということです。左の写真は15日の授業参観で行われた4～6年の着衣泳の様子です。長袖、長ズボンを身に付けての水中歩行、泳ぎによって、水着の時と比べて体が思うように動かないことを体感させ、ペットボトルを用いての背浮きを体験させていました。

児童たちは、もしも衣服を身に付けてままで水中に落ちたら、どのようにして命を守ればよいのかを学びました。この他にも交通事故、新型コロナウイルス感染など子どもたちの身の回りには危険が潜んでいます。交通ルールの遵守、基本的な感染症予防対策など、自分の命を自分で守る指導をご家庭でもよろしくお願いいたします。

もう1つは、我が家のスマホルールの遵守です。今まで本校では、学校が定めたスマホルールを示して遵守を指導してきました。しかし、本来、ルール、特にインターネットに関するルールは、守る立場の者が納得した上で、自分自身で決めるべきものだと考えます。

児童精神科医の吉川徹氏は、著書「ゲーム・ネットの世界から離れられない子どもたち」の中で次のように述べています。

- ・親が一方向的に約束を子どもに守らせるのではなく、子どもと一緒に約束の内容を考えた方が先々、約束を守らせることが楽になる。これには時間や根気が必要。
- ・実際に守れる可能性の高いルールを作るためには、子どもが親と相談するプロセスがあった方がよい。
- ・「大人はネットやスマホのよいところも悪いところもよく知っている」と子どもに感じてもらうことで、うちの親は相談に乗ってくれる相談のしがいのある大人だと思ってもらえれば、後で問題が起こりそうになった時に、早めに知らせてくれるかもしれない。
- ・ネットやゲームに関することに限らず、子育ての大原則は子どもの成長とともに、厳しい制限から緩い制限に切り替えていくことである。

吉川氏は、親子で取り組むことの重要性を主張しています。ぜひ、我が家のスマホルールづくりとその遵守への取り組みをお願いいたします。